

### 平成29年度 誠愛院内勉強会

統括副院長 石松義弘





## 平成29年度 活動目標

統括副院長石松義弘

患者さんの社会復帰のための、より良い病院をつ くるために、、、

Seiai

- ①スムーズなコミュニケ<del>Rションの病院on</del> Hospital
- ②危機管理(感染、事故、火災、地震)に強い病院
- ③患者さんも職員も意欲や充実感を持てる病院

# 〈平成29年度 部門活動計画〉 医局

誠愛院内勉強会 H29年4月18日

### 〈平成28年度 医局部門活動報告〉

#### \* 財務の視点

- 近隣急性期病院との連携の強化 →済生会二日市病院の回診に定期参加
- 薬剤使用管理の強化、診療機器の効率的運用 →内視鏡検査の整理

#### \* 患者満足の視点

- 入院待機期間の短縮、入院期間の短縮とFIM効率向上 → 実績指数での評価
- ボトックス外来の新設 →試験的に開始

#### 業務プロセスの視点

- 組織改編に伴う効率的業務分担の見直し →業務分掌明確化、個人負担軽減
- 病棟ミーティングやEST回診などへの参加、療養病棟患者評価の説明実施

#### ❖ 人材育成の視点

- 医局会の学問的レベルアップにより学会発表を促進 →学会発表1題
- 新たな専門医育成、次世代医師のリクルート

### <平成29年度 部門活動計画 医局>

#### ❖ 財務の視点

- ■地域医療機関との連携強化
- 減薬への取り組み強化
- 5病棟回復期化へむけてのリハ実績指数管理
- H30年度診療報酬・介護報酬同時改定への対応

#### ❖ 患者満足の視点

- 新規診断機器の導入
- 先端機器を用いた治療法の導入へ向けた準備

#### 業務プロセスの視点

- 効率的業務分掌の見直し、新病院に合わせた体制作り
- 患者紹介依頼・各種書類依頼への迅速な対応

#### ❖ 人材育成の視点

学会発表・論文発表の促進、新たな専門医育成

### 診療部の活動報告

平成28年度の実績 平成29年度の目標

平成29年4月18日

副院長:楠田憲治

### 薬剤課

### 平成28年度の実績

- 服薬指導件数:65件/年(目標:144件/年)
- ・ 先発品より後発品への変更 : 12剤

### 平成29年度の目標

- ・服薬指導再開目標 週 3件~6件、年間実施件数 132件以上
- ・後発品の見直し

納入価格からのアプローチ : 4~8剤以上

先発品から後発品への変更 : 6~10剤

・ 処方が中止になっている特別採用薬(39剤)の20%削減:8剤

### 検査課

### 平成28年度の実績

- ・検査課からの情報発信として掲示板の作成:8件/年
- ・技師会の勉強会に参加する:6回/年

### 平成29年度の目標

- ・循環器エコー(心臓、頸動脈、下肢静脈)の検査件数増加 検査技師の西川さんによる超音波検査の導入
- ・技師会の勉強会の参加:12回/年

### 放射線課

### 平成28年度の実績

- 画像フィルムのデータ化 1,671枚処理。
- ・ 平成28年度の再撮影回数は188回。

#### • 検査件数

外来				
	H26	H27	H28	
一般	507	469	502	
ポータブル	0	0	0	
VF	0	1	0	
透視	0	0	0	
CT	83	119	97	
MRI	73	51	46	

入院				
	H28			
一般	4,377	4,497	3,983	
ポータブル	8	15	7	
VF	29	33	30	
透視	14	5	7	
CT	1,002	1,018	926	
MRI	181	170	142	

### 平成29年度の目標

- ・ 再撮影回数を前年度より10%減らす。
- ・外部研修会への年10回以上参加。
- \*過去画像フィルムのデータ化(平成22年までは完了)については、 医局と検討する。

### 栄養課

### 平成28年度の実績

- ・毎月の流動食や補助食品の在庫額を6万円以下にする:7ヵ月/12ヵ月
- ・月に1度、行事食の提供し、年に2回、嗜好調査を実施した。

### 平成29年度の目標

- ・栄養補助食品の仕入れ金額(480万円/年)を昨年度より5~10% 削減する
- ・食事内容を改善して、残食の量(23kg/日)を昨年度より
- 5%減らす

# 平成29年度 看護部活動目標

看護部 金山萬紀子

### 1. 財務の視点

看護師・看護助手の確保

- ・新卒看護師の入職者数増平成28年度 3名 →平成29年度 5名
- ・看護助手の確保
- ・回復期リハ病棟への転換(5病棟)

#### 2. 患者満足の視点

安全な看護・介護の提供

・転倒転落事故の減少

```
平成27年度 転倒件数 254件
平成28年度 転倒件数 229件 前年比10%減 目標達成
平成29年度 前年比 5%減
```

・介護福祉士の排泄ケアへの取組み強化

### 3. 業務プロセスの視点

- ワークライフバランス継続
- ・看護、介護ケアの充実(業務内容の見直し)

#### 4. 人材育成の視点

専門看護師室の設置専門看護師、認定看護師の活用

・看護研究の推進と研修会への参加

平成28年度 学会発表 5件目標 → 6件(達成) 平成29年度 学会発表 7件目標

### 平成29年度 リハビリテーション部の活動目標



リハビリテーション部 副院長 赤松 泰典

- 1.各診療への適切な人事配置により、効果的な収益を確保する。 (財務の視点)
- 2.明確な専門性に基づいた、安全で質の高いリハビリテーションを実施する。 (患者満足度・業務プロセスの視点)
- 3.臨床に根ざした教育・研究体制を充実し、その成果を公表する。 (人材育成の視点)



1. 各診療への適切な人事配置により、効果的な収益を確保する

今年度の診療報酬改定で6単位を超えるリハビリテーションが 入院料に包括(平成29年1月より)

平成28年度診療報酬改定

#### 質の高いリハビリテーションの評価等①

回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカムの評価

▶回復期リハビリテーション病棟において、アウトカムの評価を行い、一定の水準に達しない保険医療機関については、疾患別リハビリテーション料の評価を見直す。

#### 現行

患者1人1日あたり、疾患別リハビリテーションは9単位まで出来高算定



#### 改定後

リハビリテーションの効果に係る実績が一定の水準に達しない場合、疾患別リハビリテーションは6単位まで出来高算定(<u>6単位を超えるリハビリテーションは入院料に包括(</u>※))

※急性疾患の発症後60日以内のものを除く

昨年度の目標1: 実績指数27を クリアーを達 成すること

#### 効果の実績の評価基準

3か月ごとの報告において報告の前月までの6か月間に退棟した患者を対象とした「実績指数」が2回連続して27未満の場合

実績指数 = 各患者の (FIM得点[運動項目]の、退棟時と入棟時の差) の総和

#### 目標2:

6単位を超える疾患別リハビリテーション料が算定できること

### 平成28年度7月~29年3月までの 回復期病棟における実績

回復期リハビリテーション病棟 実績指数に関する報告状況(2016-2017)					
	7月-12月		10月-3月		
	単位/人	FIM実績	単位/人	FIM実績	
1病棟	6.37	45.72	6.21	41.02	
2病棟	6.41	39.42	6.16	40.55	
3病棟	6.57	45.41	6.32	47.41	
6病棟	6.56	39.69	6.32	38.7	

リハビリスタッフ、病院スタッフのみなさんのパワーで達成!!

平成29年度も6単位/人以上とFIM実績 指数27以上を目指す

# 「目標設定等支援・管理料」を算定し、「支援・管理シート」を作成することを平成28年7月より開始した

入院も外来も要介護被保険者であれば対象となり、10%減算されるのをできるかぎり防ぎ、支援管理料を算定した

(要介護認定日の翌々月から減算)



#### (新) 目標設定等支援・管理料

1 初回の場合250点2 2回目以降の場合100点

目標設定等支援・管理料を算定してから3ヶ月間は、1月に5日を超えない範囲で、医療保険と介護保険のリハビリテーションの併給が可能

#### [算定要件等]

脳血管疾患等リハビリテーション、廃用症候群リハビリテーション、運動器リハビリテーションを実施している要介護被保険者等にリハビリテーションの目標設定等の支援、介護保険のリハビリテーションの紹介等を行った場合に算定。

標準的算定日数の3分の1経過後、目標設定等支援・管理料を算定せず疾患別リハビリテーションを行う場合、100分の90に減算。

#### 1. 各診療への適切な人事配置により、効果的な収益を確保する

- 入院診療 100名
   1病棟22名 2病棟22名 3病棟28名 6病棟20名 5病棟8名を配置
- 外来診療 成人6名 小児10名
- 通所リハ11名



- 1. 各診療への適切な人事配置により、効果的な収益を確保する
- 平成29年10月 5病棟を回復期病棟へ転換(平均24床)

### 円滑な移行を目指す

平成29年9月より実績作り

- ①人員配置
- ②365体制へ変換
- ③患者1人あたり6単位以上実施
- ④FIM実績指数27以上

5つの回復期病棟に対象外の患者が2割以下で調整しながらセラピスト数が不足しないように配慮する

2.明確な専門性に基づいた、安全で質の高いリハビリテーションを実施する(患者満足度・業務プロセスの視点)

### 接遇の向上、事故件数をへらすことが目標

- クレーム年間7件以内
   2014年度5件→2015年度6件→2016年4件 接遇・インフォームドコンセントの勉強会実施 リハ部:2回、各部署2回 計4回
- 月別転倒・事故の全体件数目標20件以内 2014年度22件→2015年度15件→2016年度24件

事故対策の勉強会の実施 リハ部:2回、各部署2回 計4回

#### 3. 臨床に根ざした教育・研究体制の充実 教育研究を促進するために教育研究課の新設







田邉課長

大田課長

- ・リハ職員教育 (新人勉強会、経験年別勉強会、アップデート教育など)
  - 1. 経験年別勉強会 35回
  - 2. スーパーバイズによる現場教育
  - 3. アップデート教育
  - 4. その他 各課勉強会、水曜勉強会、テクニカル研修会の勉強会など
- 研究(学会発表など) 学会発表 20件(学会発表、文献投稿など)

院内研究発表会 30件(平成28年32件)



# 今年もリハビリ部には新人20名が 入職しました よろしくお願いいたします



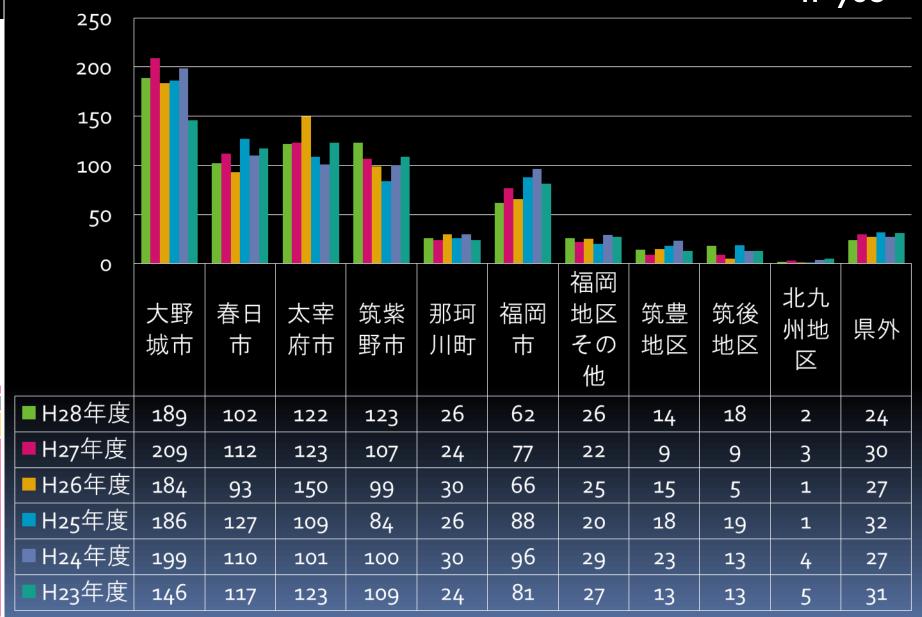
訪問看護ステーションにもプラスPT 1名

# 平成28年度実績

福祉部 中村真紀

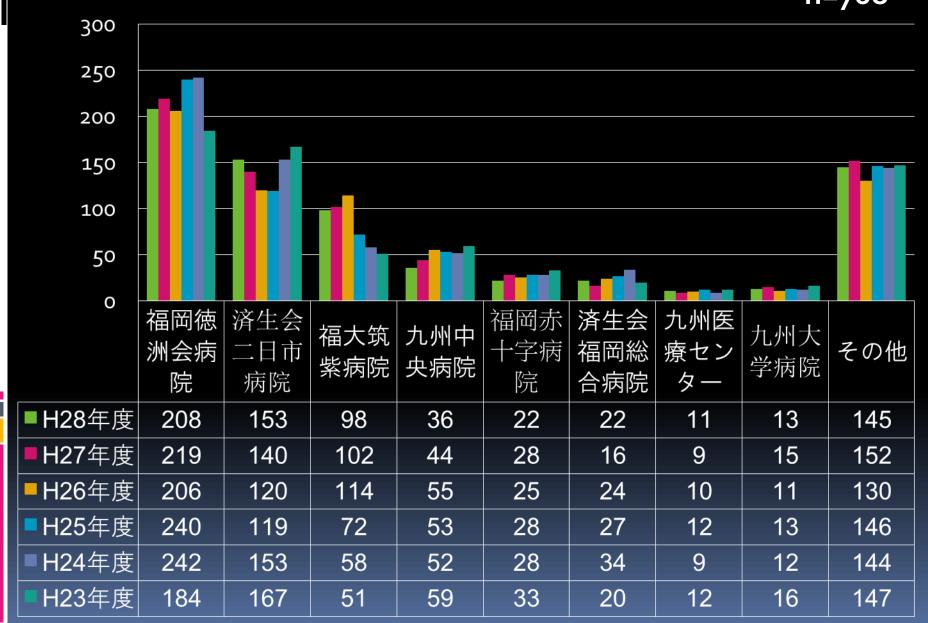


### 平成28年度 n=708





### 平成28年度 n=708



2017.4.18

# 平成29年度活動目標 福祉部

### 1.財務の視点

#### 【目標】連携強化

年度	1日平均入院患者数		
平成27年度 平成28年度	実 績:190.4床 実 績:185.8床		
平成29年度	病院目標:186床		

- 施設訪問
- · 研修会
- ・連携パス会議
- ・月報(連携先への退院患者報告)

10月には 5病棟を 回復期リハ病棟

### 2. 患者満足度の視点

#### 【目標】在宅復帰率向上

年度	家庭訪問件数	
平成28年度	入院中・退院後家庭訪問	18件/年
平成29年度	入院中·退院後家庭訪問	24件/年

- ・回復期リハ病棟の使命:在宅復帰
- ・入院前から入院~在宅までの将来構想を描くことが できるよう在宅復帰への準備状態を促進
- ・帰りたい場所、地域での生活が継続できる支援体制強化

### 3.業務プロセスの視点

#### 【目標】業務の効率化(含:患者・家族満足度UP)

年度	説明会開催件数
平成28年度	介護保険について:10回/年
平成29年度	介護保険について:10回/年

- ・個別説明 ⇒ 集団説明
- ・疑問を共有し、解決の場
- ・患者・家族同士の交流の場
- ・社会資源への理解を促進
- ・在宅復帰へ向けての準備状態を促進

### 4.人材育成の視点

### 【目標】社会福祉士の資質向上

年度	学会・研修会参加人数		
平成28年度	20名/年	(学会報告4件)	
平成29年度	24名/年		

- 入退院支援
- ・各種相談への支援
- 自己研鑚

# 平成28年度実績と 平成29年度活動方針

平成29年4月18日 管理部

#### 平成29年度基本方針

- ・今期の収入目標の達成は、5病棟の回復期転換の状況次第。転換をスムーズに行うため支援、協力。
- ・支出面では、新病院建替までのつなぎを意識しつつ、 従来以上の経費節減に努める。
- 今年度は基本設計終了し、実施設計の段階に移る予定。
- ・効率化、外注化などの業務の見直しを推進し、働きやすい職場作りに努め、職員満足度の向上を図る。

	平成28年度の実績
	光熱費の削減 ⇒ 29.1ゼオライト用井戸の掘削、水道料削減 29.1カトレア、三光クリニックLED導入、電気代削減
	備品・消耗品の見直し ⇒ 携帯会社をドコモへ統一、通信コストの削減
総務	業務の見直し ⇒ 29.2清掃業務を外部委託、消耗品費の削減
	院内環境整備 ⇒ 駐車場の整備、地震災害の復旧完了
人事	ストレスチェック制度の導入 ⇒ 28.10より実施
八爭	マイナンバー制度導入など法律・制度面の職員への周知・徹底
経理	職員・職員家族診療規程の整備
	年間の減点金額240万円以内 ⇒ 235万円 退院時未収金0 ⇒ 4名退院時未収金発生
医療情報室	リハビリ実績指数の数値を会議に提出し、見える化を行った

	平成29年度の目標
	光熱費の削減 ⇒ 電力会社、燃料費の見直し
総務 経理	業務の見直し ⇒ 託児所、売店の運営形態の検討
	退院時未収金0 ⇒ 医事、経理連携し0を目指す
	住民税関連書類の電子申請
人事	ストレスチェックの継続実施・定着化
	女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を目指す⇒人材確保
	総合受付の設置⇒業務の効率化、接遇の向上
医事	年間の減点金額200万円以内、退院時未収金0、入院前面談時間の短縮
医療情報室	電子カルテ関連システムの随時見直し、新病院に向けた電子カルテの検討

### 介護老人保健施設カトレア

~平成28年度の報告と平成29年度の展望

- 1 平成28年度の報告
- 2 平成29年度 組織改編 目標

施設長 岩瀬豊子

平成29年4月18日 誠愛リハビリテーション院内勉強会

# 1. 平成28年度の報告 目標達成の視点から

入所	・在宅復帰支援加算継続算定(在宅復帰率30%以上)・・・達成(42%)
	·平均利用者数 92人以上 ·······91.7人
	·平均単価 13100円······13046円
通所	·平均利用者数 25人以上····································
	・平成30年度医療介護同時改定に向けての準備・・・・・リハマネⅡ算定開始
職員	·禁煙指導 ストレスチェック · · · · · · · · · · · 敷地内禁煙実施
	・全国老健大会演題発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・発表なし
利用者も	ナービス
	・基本的介護サービス 委員会活動・・継続 目的別活動・・認知症ケア
	・生活を彩るクラブ活動・・・・・・・・継続(塗り絵クラブ展示会など)
	·家族会2回開催·······1回目 脳卒中 2回目 カトレアのリハビリ

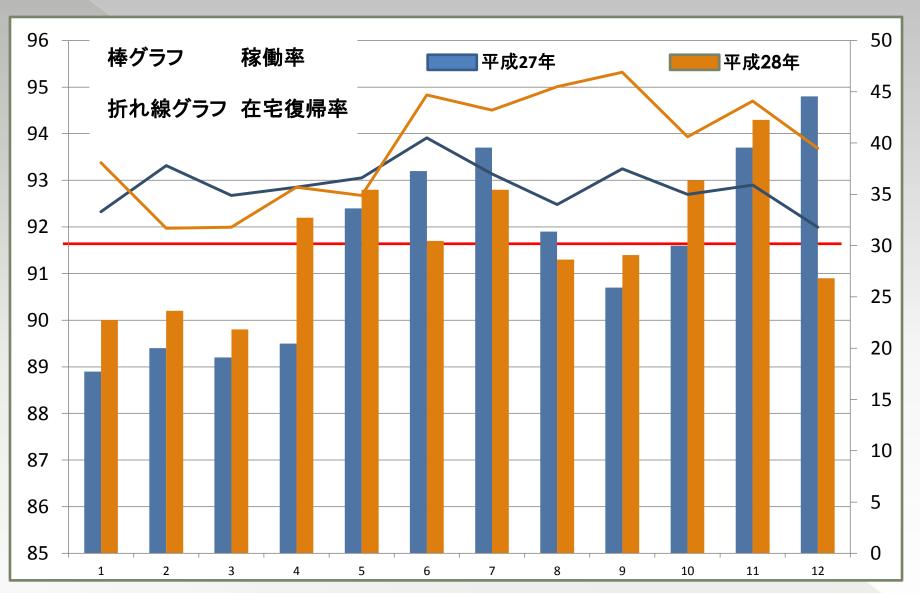
介護老人保健施設カトレア

### 平成26、27、28年度の基本データ

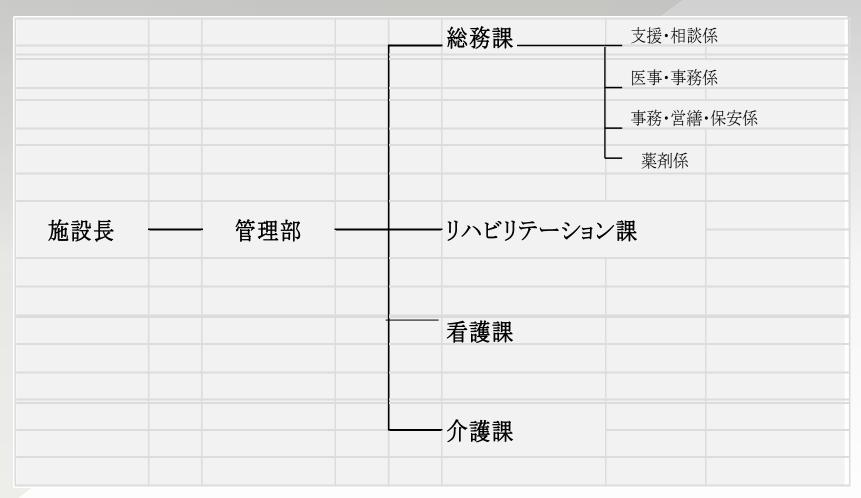
#### 入所定員100人 通所定員40人

		平成26年	平成27年	平成28年
入所	平均利用者数(人)	88.9	91.6	91.7
	在宅復帰率(%)	45.5	35.6	42.1
	平均在所日数(日)	361	389	446
	新規入所者数(人)	62	92	73
	退所者数(人)	66	87	77
通所	平均利用者数(人)	24.6	24.0	23.3

### 平成27、28年 在宅復帰率と稼働率



### カトレア組織の改編・平成29年4月1日~



### 平成29年度の目標(1)

- 1. 入所 在宅復帰支援加算継続算定(在宅復帰率30%以上)
  - •平均利用者数 93人を目指す 平均単価 13100円
- 2. 通所 平均利用者数 24人以上
  - 平成30年度医療介護同時改定に向けての準備 (法人内連携強化)
- 3. 職員教育 •全国老健大会(愛媛)演題発表 •••

在宅支援にて胃瘻から経口摂取へ移行できた一例

・地方会発表・・・ 認知症グループ訓練

### 平成29年度の目標(2)

#### 4. 利用者サービス

基本的介護サービス 既存委員会活動

目的別チーム活動 (認知症グループ訓練等)

生活を彩る クラブ活動

(塗り絵、水墨画、書道、短歌、音楽、手工芸)

季節行事

外出行事

家族支援

満足度調査

家族会(年2回)